

神奈川県山梨教会連合会より

かりん

「神様にお任せして」

川込光貴先生は、昭和四十一年生まれ。高校を卒業して金光学院に行かれた後、山梨学院大学で学ばれました。

お祖父様が初代教会長、お祖母様が二代目、そして三代目である三年前に亡くなられたお父様の川込京司先生の後を継いで、現在四代教会長として御用に当っておられます。

○お父様が亡くなられたのが三年前ということですが、何かご病気をされたのですか？

光貴先生（以下光）…亡くなったのは九十二歳で、年も年だったので。ただ、直接の原因ではないけど、八十歳少し前に多発性の脳梗塞を起こし、それから具合が悪くなりました。

○脳梗塞というと…大変なイメージですが光…でもね、その中でも大変おかげを頂いて、脳梗塞で詰まったのが太い血管だったから危なかったのだけど、詰まったのが細い血管の部位だったので助かりました。「あと一センチ場所がずれていたら…」と、後か

ら主治医から聞かされて驚きました。

○おかげ頂かれたのですね。

光…脳梗塞による後遺症はほぼ出なかったのですが、その頃から肺気腫も患うようになってしまい、更に時々、喘息の発作を起こすようになりました。

○呼吸が大変そうですね。

光…呼吸が苦しくなってくると、歩くのも大変になり、歩かなくなってきた、今度は足の筋力が衰えてしまったの悪循環。

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第 47 回 大明教会 川込光貴先生



寝たきりにはならなかったですが、起きるのも大変な状態でした。

そのころは、母が元気で、老々介護で母が主に世話していたのです。お世話をしていたのですが、その母が、癌に罹って先に亡くなってしまいました。

○急に亡くなられたのですね。

光…そうですね。股関節の方で病院にかか

ったら、直腸がんが見つかりました。手術をどうしようか、金光様にお伺いに行こうということになり、母と車でご本部へ参拝しました。母の里は愛媛県だったので、本部参拝後、少し足を延ばして郷の双岩教会へも行きました。それ位元気だったのですが、その旅行から五か月後に亡くなってしまいました。

○最後に参拝出来て、親孝行出来ましたね。

お父様のその後は…。

光…姉がお世話をしていたのだけど、なかなか上手くいかなくて。

○介護が大変だったのですか？

光…姉の理想の介護が、現実的には無理というか、うまくかみ合わなくて。姉はそれでも介護したいという強い思いがあったのですが、慣れない介護に疲れてしまい、周りの勧めもあって、父はホームに入所することになりました。数年前のそのころが一番大変だったかな。

○聞けば聞くほど大変でしたね！先生よく穏やかでおられましたね。

光…実際、心穏やかでは無いですが、もう僕は神様にお任せしていました。人の力ではどうしようもなかったですから。

そうすると不思議なもので、気が付けば、周りの人達が手を差し伸べて、助けてくれたようになりました。おかげ頂いてのことだったと思います。

○ありがとうございます。

（今村則子）

首都圏布教130年 神奈川山梨教会連合会信奉者集会 が行われました

去る六月十六日(土)〜十七日(日)にマホロバ・マインズ三浦に於いて「喜びにめざめ そして未来へ」をテーマに神奈川山梨教会連合会信奉者集会が行われた。参加者は四十二名でした。(全日程参加教師六名・信徒十九名・部分参加十七名)

十六日十三時から開会行事が行われ、山田信二会長が、「当連合会活動では喜びに焦点を当てています。今年は首都圏布教百三十年。この百三十年の間、信心が伝えられてきたが、それは喜びがあつてこそ伝えられ、受け継がれてきたと考えます。今回の集会でも、信心の喜びを改めて自覚し、未来に向かって伝えていくことを願いとされています」と挨拶された。続いて、神人あいよかけよの生活運動関東教区運動推進委員の松本信吉先生(麻布教会長)から「神の喜び」と題して講演があり、「信心する者とせぬ者とは、親のある子とない子ほどの違いがあります」という言葉から信心の道に入られた祖父の喜びや、自身また信徒の喜びなどから、神様に喜んでいただく生き方の大切さを話された。

次に、「喜びに目覚める」というテーマで班別懇談会が行われ、教師が一班、信徒が三班の四班に分かれて、自身のおかげ話などが話された。十六時三十分よりは全体懇談会に移り、各班の報告がなされ、松本信吉先生より感話をいただいた。

そして全体写真、夕食後は、齋藤友子先生(鶴見教会)、今村則子先生(生麦教会)による「夕べのつどい」(ゲーム大会)を行い、その後の自由懇談では、日頃交流の機会のない者同士が触れ合う中で、様々な言葉が交わされた。

十七日は九時からご祈念、教話が行われ、九時三十分より、前日とは違った班編成でテーマ別の班別懇談会が行われた。各班は、一班「お道の仲間をつくろう」、二班「信心を高めよう」、三班「信心の喜びを伝えよう」、そして四班(教師班)「人を育てよう」というテーマに沿った(4ページ中段へ↓)



○かりんの輪

「中山道よろこびの道」

藤沢教会 高橋義吉

平成二十七年二月、会社帰りに駅の小田急トラベルで、中山道を日本橋から京都三条大橋まで歩くツアーのパンフレットを見つけた。家にパンフレットを持ち帰って妻に見せたところ、仕事をリタイアする時期が近づいているので卒業旅行として参加しようということになり、十七回のツアーを二年半かけて参加することにしました。初回は、四月に東京駅集合で私と妻と息子の三人で参加し、歩け歩けを開始しました。昼食はとげ抜き地蔵で有名な単嶋商店街で食べました。単嶋はおばさんの街で活気がありました。神田明神や新撰組局長の近藤勇のお墓を見て、東京都北区のJR埼京線浮間舟渡駅が初日のゴールになりました。

中山道は東海道と違い大きな川がなく、大雨で川の渡しが開鎖したり、渡し人に背負われることもないので、女性や商人に好まれて、皇女和宮様も京都から江戸へ嫁ぐために通られ、途中の経路に多くの足跡を残されています。「月の宮」や「うんち塚」等の高貴な人故の記念碑には驚きました。

明治天皇が休憩された碑も数多く見られました。中山道の一番の難所は碓氷峠で、標高は960mです。頂上に降った雨は太

「女性のつどい」報告

七月三日(火)、小田原教会で「女性のつどい」が開かれ、十教会二十五人が参加し、充実の二時間半を過ごさせていただいた。

外に出かけるとなると思い止まってしまふ方たちも、自分の教会であれば参加しやすいのではないかとの思いで教会を回らせていただいている。今回の小田原教会は、二度目となるが、これまでお目にかかったことのない方たちも多数参加して、講師の先生を始め、皆さんで心のこもったご準備とめてなしに包まれて、多くのことを学ばせていただいた。

講師の宮川晴江先生(小田原教会在籍教師)には、連合会の首都圏布教百二十年の集会で「箴の梅」を披露していただいたことを覚えていられる方も多いのでは。この度は、「吉備舞と御用」との講題で、吉備舞をすすめるようになったきっかけや、吉備舞の歴史、そして本物の装束も、教会長先生をモデルに着付けまで見せていただいた。このお話を伺って、吉備舞の奥深さを知った。これからは、もっとじっくり味わって見せていただきたいとの声も聞かれた。

さて、その吉備舞は、明治初頭に岡山で始まり、神社などを通して民間に広がっていった。その後、祭典楽として黒住教と金光教で採用され、金光教では創始者の直弟子岸本芳秀師を招き猛特訓して、明治二十

三年十月の大祭から採り入れるようになった。それから、初代楽長尾原音人が奉仕に加わり、典楽は教団の内部組織となり、教団活動の一部として育成運営されていった。

晴江先生が吉備舞をするようになったのは、お母さんから勧められたことから始まる。小さい頃、教会で舞うとほめてくれるのがうれしくて続けられた。そうしているうちに吉備舞の友達もでき、舞うことが楽しくなった。そして、高一の時には御本部でも奉仕された。大学生になり厳しい先生のご指導のもと、指導員の資格も取り、これまで、アメリカ、オーストラリア、イギリスなどで奉納され、また、日本では、築地本願寺や刑務所でも披露された。

そして、これから舞を通して子ども達を育てたいと熱く語られた。舞を通して、祈りやお届けの大切さを、実践を通して伝え、神様の祈りの中で練習していることを分かってもらいたい。時には、胸の中にご神米を入れてあげることもあるそうだ。子ども達は素直に神様を受け入れる。それを見守っている親も、子どもの御用を通して、家の助かり徳積みになって欲しいと願っておられる。

一つひとつ、そうだと素直に納得しながら聞かせていただいた。また、晴江先生のしっかりしたご信心も感じさせてください。金光教の明るい未来が見えてくるようであった。(鎌倉教会 吉岡裕子)

平洋と日本海に流れ分かれることになります。頂上近くは切り立った尾根道が続き、参加者は早く通りきろうと、親知らず、子知らず、夫婦知らずの命がけの旅となりました。

途中の名所は、諏訪神社の御柱の通り道がすごいと思いましたが、何といても妻籠宿と馬籠宿が、昔の宿場を彷彿させる町並みで、刀を差した侍が通りそうにワクワクしました。

ツアーの後半では、NHK大河ドラマ「官兵衛」のハイライト、関ヶ原合戦場を通りました。集合が関ヶ原駅だったので、自家用車で早く着き合戦場を妻と二人で散策しました。石田三成の陣地から徳川家康の陣地が近くて、昔の戦は接近戦だったと思いました。

自家用車で行ったので、ツアー終了後は伊吹山頂上へドライブしました。織田信長が頂上で薬草を育てた地で、植物の生態系が豊かで高山植物の花を楽しめました。頂上には大和武尊の像が立っていて、八岐大蛇を退治した伝説の地でもありました。

石田三成に過ぎたるものとして、武将の「島左近」と居城の「佐和山城」が言われています。彦根に宿泊したホテルから近かったので佐和山城跡に登ってみました。本丸跡からは琵琶湖が良く見えて、吹きすさぶ風の音に武将達の無念の声を聞くようでした。

平成 30 年 神奈川山梨教会連合会 生神金光大神大祭日程

教会名	日 程
甲府教会	10月21日(日) 13時30分
鎌倉教会	10月28日(日) 13時30分
登戸教会	10月28日(日) 13時
横浜西教会	10月28日(日) 13時30分
大明教会	10月28日(土) 13時30分
横須賀教会	11月3日(祝) 13時30分
生麦教会	11月3日(祝) 13時
丸子教会	11月3日(祝) 11時
相模原教会	11月3日(祝) 14時
子安教会	11月4日(日) 13時30分
併 開教八十年感謝祭	
平塚教会	11月10日(土) 13時
鶴見教会	11月11日(日) 13時
武蔵小杉教会	11月11日(日) 11時
大磯教会	鶴見教会と合同
野毛教会	11月17日(土) 13時30分
小田原教会	11月23日(祝) 14時
神奈川教会	11月24日(土) 11時30分
藤沢教会	11月28日(水) 11時
津久井教会	未 定
南甲府教会	未 定

(↓2ページ中段より)

って思い思いに簡単な言葉にまとめて付箋に記入し、模造紙にグループ分けをしながら議論を深めていった。全体懇談では、それぞれ自慢の模造紙を貼り付け、発表し合い、最後に会長のまとめが行われた。

十一時五十分より閉会行事が行われ、大塚副会長から「二日の間に、様々な話を聞かせていただき、様々なご提案に触れ有意義な研修会でした。これからはここで得たことを実践して、一層意義あるものにできればと思います」と挨拶があった。

なお、懇談の詳細については、記録冊子を各教会に配布していますので、ご参照ください。

(丸子教会 横山光雄)

○金光教鶴見教会仮移転のお知らせ

この度、左記の通り教会移転がありましたのでお知らせいたします

去る6月28日、金光教鶴見教会は遷座式を執り行い、金光教大磯教会へ仮移転されました。

上記の生神金光大神大祭は、鶴見教会、大磯教会合同で、大磯教会のお広前で執り行われますので、お間違えのないようにお運びください。

「私の信心」

子安教会 山口和賀雄

〈な・が・れ〉

父の告別式での故村田喜實雄先生の祭詞に感涙し、喪主挨拶もままならず、先生に感謝と信心を誓った私でしたが、相変わらず、教会へ参拝するだけで「神」に真剣に向かうことはありませんでした。

しかし、教会行事のお手伝い、関係教会への代表参拝、神奈川山梨教会連合会信徒部委員としてのお手伝いを通し、熱心な信者さんのお話を伺いながら信心について少しずつ考えるようになっていきました。

そして、教会長先生より土曜集会において教祖様についてお教え頂き、さらに6月中旬に行われた連合会信者集会で多くの皆様の信心の取り組み方や考えを聞くことにより、信心を一步進められたと思っています。

私はまだ、「信心せんでもおかげはやってやる」のレベルですが、「信心しなければ受けれないおかげ」「信心しなければ気づくことの出来ないおかげ」へと信心を高められるよう稽古をして行こうと考えています。

どうぞ皆様お導き下さいますようお願い申し上げます。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信二

〒245-0017 横浜市泉区下飯田町926・23
金光教横浜西教会内